

【シンポジウム】

地域における社会経済状況と医療：公的医療機能再考

【座長】

伊藤 弘人 先生（労働者健康安全機構）

【シンポジスト（敬称略）】

地域経済循環構造からみた病院の新たな可能性

伊藤 弘人 先生（労働者健康安全機構）

地域経済循環を分析するシステムの開発と医療との連動について

山崎 清 先生（日本政策投資銀行株式会社価値総合研究所）

自治体病院から見た地域の社会経済状況と医療

小熊 豊 先生（全国自治体病院協議）

「地域の災害レジリエンスの強化に寄与する医療拠点機能」ディスカッション ペーパーについて

印南 一路 先生（慶應義塾大学総合政策学部・医療経済研究機構）

〔企画の趣旨〕

新型コロナウイルス感染症は、多様な立場から医療のあるべき姿を再考する契機となっている。近年、自然災害は、頻発・激甚化しており、地域におけるヘルスケアの事業継続計画（BCP）の必要性も提起されている。一方で、超高齢社会と人口減少に直面している我が国は、働き方や社会保障の在り方を再考する時期に来ている。医療と経済の両立を実現するために、どのような方向性が考えられるのか。本シンポジウムでは、地域の社会経済状況との関連という観点から公的医療機能とその方向性について議論する。

第1席では労働者健康安全機構が進めている取り組みについて、第2席では政府が進める地域経済循環分析からみた医療の在り方について、第3席では自治体病院からみた地域医療と経済について、最新の知見と方向性を紹介いただく。その後、指定発言をいただいた上で、シンポジスト・フロアとのディスカッションを行う。